



ITUAJより

編集後記

年度末を迎え卒業式が連想される3月号は、ITU-R SG6議長、ITU-R SG5副議長を任期満了で退任されたお二人から寄稿いただくことができました。また、2023年度のITU協会賞奨励賞受賞者シリーズも本号が最終となりました。どうぞご覧ください。

ITUジャーナル読者アンケート

アンケートはこちら https://www.ituaj.jp/?page_id=793

- 読者から届いた声を紹介します。
- ・「標準化活動に関わる人材育成」が面白かった。これから標準化人材の育成に取り組もうとしているが、経済産業省のISO/IEC国際標準化人材育成講座（ヤングプロフェッショナル）は参考になった。他組織でも人材育成の取組みがあれば紹介いただきたい。
 - ・特集「持続可能な農業を目指すソーラーシェアリング」が良かった。課題が書かれている点、今はICTと遠い実態と、今後の発展の方向性が書かれているため。
 - ・「情報通信白書の概要について」情報通信白書は情報が非常に多岐にわたるため、このようなかたちで概要を紹介いただくことでトピックを理解できて非常に興味深かった。
 - ・各種会合報告は過去の議論の経過を手軽に確認したい際などに活用している。

選択肢の回答では「バックナンバーを含めた強力な検索機能」を望む声もいただきました。どうぞ皆様のご意見・ご感想をお寄せ下さい。今後のITUジャーナルに生かしていきたいと思っております。

編 集 委 員

委員長	亀山 渉	早稲田大学
委 員	深堀 道子	総務省 国際戦略局
〃	寺山由希子	総務省 国際戦略局
〃	伊藤 愛佳	総務省 国際戦略局
〃	林 祐二郎	総務省 総合通信基盤局
〃	橋本 昌史	国立研究開発法人情報通信研究機構
〃	山本 浩司	日本電信電話株式会社
〃	中山 智美	KDDI株式会社
〃	大山 真澄	ソフトバンク株式会社
〃	陶山 桃子	日本放送協会
〃	新井 勇太	一般社団法人日本民間放送連盟
〃	菰田 正樹	通信電線線材協会
〃	長谷川一知	富士通株式会社
〃	飯村 優子	ソニーグループ株式会社
〃	神保 光子	日本電気株式会社
〃	中平 佳裕	沖電気工業株式会社
〃	小川 健一	株式会社日立製作所
〃	吉野 絵美	一般社団法人情報通信技術委員会
〃	三木 啓嗣	一般社団法人電波産業会
〃	山崎 信	一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター
顧問	齊藤 忠夫	一般社団法人ICT-ISAC
〃	新 博行	株式会社NTTドコモ
〃	田中 良明	早稲田大学

編集委員より

国際標準化会議でのタイムマネジメントの現在地

日本電信電話株式会社
研究開発マーケティング本部 研究企画部門
R&D推進担当 標準化推進室 室長

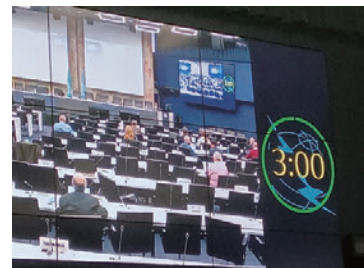
やまもと ひろし
山本 浩司



スイスのジュネーブで開催中の「電気通信標準化諮問委員会（ITU-T TSAG）」に参加しています。2024年はITU-Tの標準化活動の方向性を決める最高意志決定会議である「世界電気通信標準化総会（WTSA）」が開催されることから、諮問委員会に各国から大勢の参加者が集い、熱のいった議論が繰り広げられている最中です。

野球の試合で投手が打者に投球するまでに使える時間を制限するピッチクロック（pitch clock）という仕組みが導入されていますが、ITU-Tの会議でも同様の仕組みが導入されていて（写真参照）、1回の発言時間が2分～3分に制限される仕組みになっています。この仕組みの導入効果はきめんで、特定の話者がダラダラと持論を述べることがなくなり、会議が非常にスムーズに進行されるようになりました。本来であれば、会議参加者全員が皆の時間を使っている意識をもって適切に発言することでこのよう仕組みは必要ないと思われるのですが、現状はこれに強制的に管理する仕組みを入れないと会議が適切に進められないというのが悲しいながら実情のようです。

諮問委員会では、今後4年間の研究課題の構成見直しやそのマネジメント体制、会議運営を進めるためのルール改定など非常に重要な議論が進められており、今後の機会にレポートさせていただきたいと考えております。



発言時間クロック

ITUジャーナル

Vol.54 No.3 2024年3月1日発行／毎月1回1日発行
発行人 山川 鉄郎
一般財団法人日本ITU協会
〒160-0022 東京都新宿区新宿1-17-11
BN御苑ビル5階
TEL.03-5357-7610(代) FAX.03-3356-8170
編集人 岸本淳一、石田直子、平山早美
編集協力 株式会社クリエイト・クルーズ

©著作権所有 一般財団法人日本ITU協会